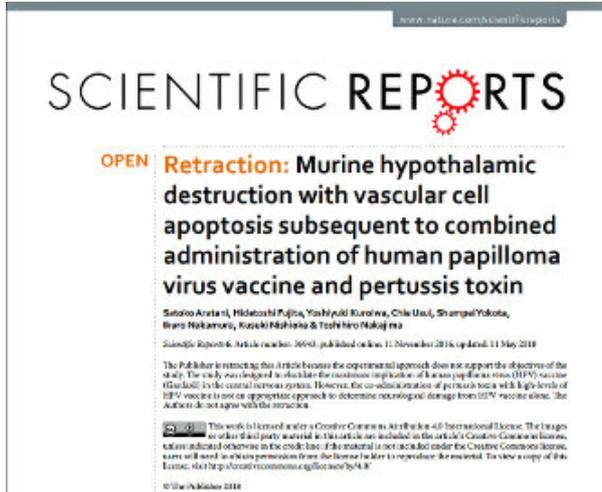


英科学誌

HPVワクチン論文を撤回 「手法が不適切」

毎日新聞 2018年5月12日 18時55分 (最終更新 5月12日 20時28分)



HPVワクチン論文撤回を発表した英科学誌のサイト

英科学誌サイエンティフィック・リポーツは、2016年11月に掲載した、子宮頸（けい）がんなどを予防するHPV（ヒトパピローマウイルス）ワクチンに関する論文を撤回すると発表した。「目的に対する手法が不適切」としているが、著者は撤回に同意していないという。

HPVワクチンを巡っては、接種後の健康被害の訴えを受け、東京医大などのチームが「HPVワクチン関連神経免疫異常症候群（HAN S）」という病態を提唱した。仕組みを解明するため、ワクチンを百日ぜき毒素と共に投与した

マウスを対照群と比較する試験を行い、脳の異常や運動機能障害などを確認。結果をまとめた論文を同誌で発表した。

試験では、脳に異物が入らないようヒトやマウスに備わっている血液脳関門を薬物が通過しやすくする目的で百日ぜき毒素を使用。ワクチンは0.1ミリリットルを5回、計0.5ミリリットル投与したが、ヒトに接種する3回のうちの1回分に相当する量だった。同誌は「HPVワクチンだけで起こる神経系の損傷を明らかにするために、百日ぜき毒素と高用量のワクチンを投与する手法は不適切」と指摘した。【高野聡】

毎日新聞のニュースサイトに掲載の記事・写真・図表など無断転載を禁止します。著作権は毎日新聞社またはその情報提供者に属します。

Copyright THE MAINICHI NEWSPAPERS. All rights reserved.